

1 単元名 かぞくはなかよし

内容(2)「家族と生活」(8)「生活や出来事の伝え合い」

2 単元について

単元設定の価値

本単元では、小学校学習指導要領の内容(2)を受け、家庭生活について調べる活動を通して、家族の役割や自分でできることについて考えることができ、家族は互いに支えあっていることに気付き、自分の役割を果たす中で、家族の一員である自分の存在への気付きを深めることを目指していく。自分の思考や気付きを比較、関連付けていくために、内容(8)について単元を通して意識し、人と関わって学ぶよさを実感する。そのための単元構成として、①家族が笑顔になるのはどんな時かを知るための観察活動、②家族を笑顔にする計画、実践、③家族を笑顔にする活動の報告、振り返り、とする。まず小単元①において、あたり前にいる家族を改めて観察をすることで、家族のよさや自分も家族の一員であることを感じ取らせる。観察した結果を友達同士で交流し、小単元②の計画につなげていく。小単元②では、自分で実践できることを考え、計画を立て、実践していく。実践したことは写真やカードに書きためたり、友達同士で交流したりすることでさらに活動を工夫して継続できるようにしたい。小単元③では、今までの活動の結果を報告したり、振り返ったりする時間を設定し、自分の家族間での役割や家族の一員であることに気付かせたい。単元を通して、友達同士での交流を繰り返しもつことで、自分自身への成長への気付きにつなげていきたい。

生活科の見方・考え方を生かす学びの姿

本単元における見方・考え方とは、家庭における家族や自分の存在を捉えたり、家庭生活に関わる活動を通して、自分にできることについて考えたりすることである。そこで、家族と関わる活動を大切にしていきたい。家族と関わる活動とは、家族についての観察活動、自分が家族を笑顔にするための活動を計画し、実践することとする。観察活動を行うことで、「家族のためにできることは何かな」「もっと笑顔にしたい」との思いや願い、実践後の友達との交流から「自分にもできそう」「もっとやりたい」との思いや願いが生まれ、どうしたらよいかを考えるだろう。思いや願いを実現するために、計画→実践→交流を繰り返し行い、その中で、家族の中での自分の役割、家族の一員であること、さらには自分自身の成長に気付かせたい。また、単元終了後も自分の家庭での生活の役割を継続して行えるような姿へとつなげていきたい。

3 単元の目標

家族が笑顔になるための活動やそれを伝え合う活動を通して、家族のことや自分でできることを考えたり、伝えたいことや伝え方を選んだりして、家族の大切さや自分が家族に支えられていること、家族と交流することのよさや楽しさが分かるとともに、自分の役割を積極的に果たし、進んで家族と触れ合うことができるようになる。

4 単元の観点別評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元における評価規準	○家族が笑顔になるための活動やそれを伝え合う活動を通して、家族の大切さや自分が家族によって支えられていること、家族と交流することのよさや楽しさが分かっている。	○家族が笑顔になるための活動やそれを伝え合う活動を通して、家族のことや自分でできることを考えたり、伝えたいことを選んだりしている。	○家族が笑顔になるための活動やそれを伝え合う活動を通して、自分の役割を積極的に果たし、進んで家族と触れ合っていこうとしている。
小単元1	(1) 家族の温かさや自分の役割に気付いている。	(1) 家庭生活を思い起こし、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて表現している。	(1) 家族が笑顔になるときを思い起こし、笑顔になるときを見つけようとしている。
小単元2	(2) 自分でできることが増える喜びや家庭での自分の役割、家族と交流することのよさや楽しさが分かっている。	(2) 家族の笑顔と自分の存在を関連付け、その理由をカードにまとめている。 (3) 自分の作戦を振り返りながら、継続して取り組みたいことを決めている。	(2) これまでの活動や友達との交流を参考に、様々な視点から笑顔を増やす計画を立て、実行する中で、自分の役割を果たそうとしている。
小単元3	(3) 家族の大切さや自分が家族によって支えられていること、自分も家族を構成する大切な一人であることに気付いている。	(4) これまでの自分の作戦について、伝えたいことを選んで紹介し合い、自分の役割を意識してこれから頑張りたいことなどを表現している。	(3) 今後も自分の役割を積極的に果たし、自分に自信をもって楽しく生活しようとしている。

5 単元の指導計画（8時間扱い）

小単元 (時数)	主な学習活動と内容	教師の働きかけ（○）	評価（☆）
一 い っ し ょ だ と ほ っ と す る ね ②	【小単元の目標】 家庭における家族の活動の観察を通して、家族一人一人のよさや団らんを感じたり、考えたりすることができる。		
	・家族が笑顔になるときはどんなときなのか考える。(1)	○家族が笑顔になるときを想像するために、家族にしてもらってうれしかったことを問いかける。 ○どんなときに笑顔になっているか、またその理由を取材するよう働きかける。	☆家庭生活を思い起こし、家族のことや自分のこと、自分がしていることについて表現している。㊦

	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が笑顔になるときとその理由を取材する。(家庭学習・観察) ・家族が笑顔になる理由を交流し、笑顔にするためにできることを考える。(1) 本時 	<ul style="list-style-type: none"> ○笑顔になるときを記録できるよう、ギガタブで写真を撮るように声かけをする。家庭にも協力をお願いする。 ○家族を笑顔にする理由を知り、自分の作戦に生かすために、少人数のグループで写真を見せながら交流する活動設ける。 ○誰とどのような交流をしたのか分かるように、交流したら「にこにこカード」にシールを貼るよう指示する。 ○家族をもっと笑顔にしたいという思いや願いをもてるよう、アイデアをウェビングマップにまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆家族が笑顔になるときを思い起こし、笑顔になるときを見つけようとしている。㊦ ☆家族の温かさや自分の役割に気付いている。㊦ 	
<p style="writing-mode: vertical-rl;">二 かぞくをえがおにする ぽかぽか大きくせん④</p>	<p>【小単元の目標】 自分が家族を笑顔にし、団らんを楽しむための活動において、思いや願いを確認しながら行動に移していくことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族を笑顔にする作戦を考える。(1) ・作戦を実行し、カードを書く。(家庭学習、常時活動) ・途中経過を報告し合い、これから自分がどうしたいのか考える。(3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○家族を笑顔にする作戦を考えるために、前時で話し合ったウェビングマップを提示する。 ○作戦を実行したら記録できる「ハートカード」を準備する。 ○実行したことを視覚的にとらえ、意欲化・継続化を図るために、「ハートカード」を掲示する場を用意する。 ○実行したことをギガタブで記録するよう声掛けをする。家庭にも協力をお願いする。 ○作戦を実行してみてどうだったか、友達はどうなことをしているか交流するために、話し合いの場を設ける。 ○誰とどのような交流をしたのか分かるように、交流したら「にこにこカード」にシール 	<ul style="list-style-type: none"> ☆これまでの活動や友達との交流を参考に、様々な視点から笑顔を増やす計画を立て、実行している。㊦ ☆家族の笑顔と自分の存在を関連付け、その理由をカードにまとめている。㊦ ☆自分でできることが増える喜びや家庭での自分の役割、家族と交流することのよさや楽しさが分かっている。㊦ ☆自分の作戦を振り返りながら、継続して取り組みたいことを決めている。㊦

	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦を実行し、カードを書く。(家庭学習、常時活動) 	<p>ルを貼るよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作戦をもっとよくするアイデアを考えるために、作戦を見直す時間を設ける。 ○計画→実戦→交流を繰り返し行うために、途中経過の報告の時間を3時間程度とる。 ○友達同士で相談しながら交流するために「そうだんコーナー」を設け、付箋を準備する。 	
<p>三 ぼ か ぼ か が い っ ぱ い だ ね ②</p>	<p>【小単元の目標】 これまでの活動を表現し、友達同士交流することで学びを深め、単元終了後も自分の家庭での生活の役割を実行し続けることができる。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦の結果の報告書を作る。(1) ・作戦の結果を報告し合い、作戦後のこれからを考える。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○報告書を作るために、今までの「ハートカード」の掲示やギガタブの記録を準備する。 ○作戦の経過やおうちの人の様子が書けるような報告書を準備する。 ○報告書をもとに、作戦の結果を少人数で交流する場を設ける。 ○全体で作戦を通して、思ったことや考えたことを交流し、振り返りをする。 ○児童が作戦を通して家族の一員であることに気付き、今後の継続的な活動につなげられるよう、報告書に「おうちの人から」の欄を設け、保護者の方に児童への言葉をお願いする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆これまでの自分の作戦について、伝えたいことを選んで紹介しあい、自分の役割を意識してこれから頑張りたいことなどを表現している。㊸ ☆家族の大切さや自分が家族によって支えられていること、自分も家族を構成する大切な一人であることに気付いている。㊸ ☆今後も自分の役割を積極的に果たし、自分に自信をもって楽しく生活しようとしている。㊸

6 視点について

<視点1> 児童が主体的に問題解決するための指導・支援の工夫

【「家族の一員としての自分」に気付くための単元構成の工夫】

本単元では、家庭における自分の生活や役割に目を向け対象を捉え、家族の一員としてよりよい生活をしようとする思いや願いをもって活動ができるようにしたい。そこで、単元を通して友達との交流の時間を繰り返し設ける。例えば、小単元1の家の人の笑顔になるときを観察する活動では、家庭で撮影してきた写真を見せながら交流をする。どんな時の笑顔だったのか、どうして笑顔になったのかその理

由を伝え合う。友達との交流を通して、自分一人で観察したり、考えていた時には気付かなかったことに気付いたり、「もっとこうしたい」「こんなこともできそうだな」「自分もやってみたい」という思いや願いをもったりすることができるだろう。小単元2、3でも同様に、計画→実践→交流を繰り返していき、単元の終末には「家族の一員としての自分」に気づき、自分自身の成長にも気付くように支援していきたい。

【活動を継続的に行うための工夫】

本単元の学習は、家庭での継続的な活動を行うことにより、より学びが深まると考えられる。しかし、児童の発達段階をふまえると、継続的に活動が続けることは個人差が生じると予想される。そこで、①家庭との連携、②常時活動としての「ハートカード」の掲示、の2つの支援を行う。①について、本単元は、家庭との連携が不可欠である。事前に保護者に学習のねらいや配慮について伝え、協力を依頼する。具体的には、児童の計画に基づくお手伝いなどの体験やその記録（写真や動画）などである。家庭の負担が大きくならないよう、配慮していきたい。②について、「かぞくをえがおにするぼかぼか大きくせん」を行う際にはそれぞれの家庭の事情を考慮すると、ある一定期間の時間が必要である。また、「もっとやってみたい」「こんなこともできそうだな」などの児童の思いをかなえるためにも活動を継続的に行うことで気づきの質を高められると考える。そのために「ハートカード」を用意しておき、作戦を実行したら書き込んで掲示できるようにする。「ハートカード」を書き溜めることで「もっとやってみたい」「もっと続けたい」という意欲付けにつながるだろう。また、友達が書いた「ハートカード」をいつでも見られるため、「自分にもできそうだな」「これもいいな」と思いをもつことができる。どの程度の期間継続するかは、児童の様子を見ながら教師が見極めたい。

<視点2> 児童が協働性を働かせて問題解決する手立ての工夫

【友達との交流を深めるためのツールの活用】

本単元では、児童が家族と関わり、家族の思いや願い、家族の一員としての自分、そして、学習を通して、自分自身の成長にも気付くことを目指している。その中で友達との交流が大切な学習活動となる。交流を繰り返すことで学習が高まり、深い学びへとつながっていくと考えた。そこで、交流を助けるツールとして、にこにこカード、ギガタブでの写真や動画の記録、ウェビングマップ、ハートカード、そうだんコーナーを活用する。

<にこにこカード>

本単元を通して、交流を行った際には「にこにこカード」を活用する。カードには、友達の名前を印刷しておき、交流をした友達の場所にシールを貼れるようにする。シールは、赤：いいね！なるほど！、青：同じ！（自分もしたよ）、黄：やってみたい！、で色分けして貼るようにし、一目で誰とどんな交流をしたのか分かるようにする。シールが増えることを励みに、いろいろな友達と交流を深めることをねらいとする。

<ギガタブでの写真や動画>

本単元での「かぞくをえがおにするぼかぼか大きくせん」の計画、実践では、活動場所が主に家庭となる。児童の発達段階を踏まえると、実際に活動したことで記憶が曖昧になってしまったり、文や言語でうまく伝わらなかったりする可能性がある。写真や動画の記録があれば自分の活動を容易に振り返り、友達に伝えることができるだろう。また、交流する相手にも視覚的に捉えられるので、文や言語を補う役割も果たすと考えられる。交流を深めるツールとして主に小単元1、2で活用していきたい。

<ウェビングマップ>

個々での交流で友達との共通点や違いを発見し、「これもやってみたい」「こんなこともできそうだ」と思いや願いをもったのち、さらに全体で共有するためにウェビングマップを活用する。個々に交流したことを全体に視覚的に示すことで、小単元2で「かぞくをえがおにするほかほか大きくせん」を計画する際に効果的な役割を果たすと考えられる。

<ハートカード、そうだんコーナー>

作戦を実行したらハートカードを随時書き溜めていく。視点1で述べたように継続的な活動を行うための手立てであるが、協働性を働かせる学びを実現するためのツールとしても有効である。そこで、ハートカードを書き溜めて、児童がいつでも見られるようにする。誰がどんな作戦をしたのか一目で分かるようにするために、教室後方の個人フォルダを活用して掲示をする。また、「そうだんコーナー」も近くに設ける。作戦を実行するにあたり、友達に相談したいこと（例：いもうとをえがおにするにはどうしたらいいですか、しょっきのおさらをうまくふくにはどうしたらいいですか、など）を付箋に書き込んで貼れるようにする。それに対するアドバイスを書き込み、また付箋を貼る。ハートカード、そうだんコーナーは「交流」という時間を設けなくても掲示物を示すことにより自然と交流の場が生まれる。友達の活動を知ることができたり、自分の活動を友達に知らせることもできたりするので、学びを深められるだろう。

本時では、にこにこカード、ギガタブでの写真や動画、ウェビングマップをツールとして活用する。

8 本時の指導

(1) 目標

家庭で観察してきたことや笑顔になる理由を交流することを通して、家族の温かさや自分の役割に気付くことができる。(知識及び技能)

(2) この時間の目指す児童の姿

家庭で観察してきたことや笑顔になる理由を交流することを通して、家族を笑顔にするために自分にできそうなことを見つけようとする。

(3) 展開 (2/8)

時間	学習活動と内容	教師の支援 (○) 評価 (☆)
0	1 前時までの学習、家庭での観察活動を振り返り、今日のめあてを確認する。	○家庭での観察活動がすぐに見られるように、ギガタブをあらかじめ準備するよう声掛けをする。
かぞくの「にこにこ」のりゆうをさぐる。		
3	2 交流の仕方を確認する。 <交流の仕方> ・二人組で交流する。 ・ギガタブで撮った写真を見せる。 ・どんな時に、どんな理由で笑顔になったのか、話を聞いた感想を伝え合う。 ・伝え合ったら、「にこにこカード」にシールを貼る。 赤：いいね！なるほど！ 青：同じ！（自分もしたよ）	○交流の仕方が分かるよう、手順を示す。 ○写真の見せ合いだけに終わらないよう、交流するポイント（「どんな時に」「どんな理由で」）をキーワードとして板書に示す。 ○伝え合った後、誰と交流したのか、どんな内容だったのかを忘れないようにするために、シールを貼ることができる「にこにこカード」とシールを配る。

黄：やってみたい！

8 3 二人組で交流をする。



お母さんは、食器を片付けたら笑顔になったよ。うれしかったからかな。

弟とトランプをしたら楽しそうだったよ。僕が遊んであげたからだね。



食器洗いは僕もやったよ。喜んでくれたよ。

弟とはあまり遊んであげてないから、私も今度やってみようかな。



20 3 家族が笑顔になる時はどんな時なのかを全体で交流する。

- ・家族が笑顔になった時とその理由を発表する。

30 4 「かぞくをえがおにするぼかぼか大きくせん」でできそうなアイデアを出し合う。

- ・ウェビングマップにまとめていく。



お皿洗いはみんなもやっていたから僕もやってみたいな。

○家庭での観察活動をより具体的に伝えるために、ギガタブで撮った写真を見せながら話をするよう指示する。

○児童たちの様子を見ながら、交流のポイントを意識するよう声掛けをする。

○交流の仕方に戸惑う児童がいる場合は、友達と交流ができるよう、一緒に話をしたり、写真の様子を聞き出したりするなどの支援をする。

○家族の笑顔と自分との関わりに気付くために、児童の発表を「自分との関わり」「他のこととの関わり」に分類して板書する。

○自分と関わって家族の笑顔が生まれていることに視覚的に気付くために、「にこにこマーク」を児童の発表に付けていく。

○家族を「笑顔にしたい」という思いをもつために、自分たちに何かできないか投げかける。

☆家庭で観察してきたことや笑顔になる理由を交流することを通して、家族の温かさや自分の役割に気付くことができる。㊦

○何ができそうか、そのためにどんな風に行ったら家族が笑顔になるのかを問う。

○自分たちにできそうなことを視覚的に捉えるために、児童の考えをウェビングマップにまとめていく。

○アイデアをたくさん考えられたことを称賛する。

丁寧に洗うと喜んでくれそう。



毎日続けるといいかもしれないね。



つぎは、かぞくがにこにこになるさくせんをかんがえたいな。



5 次時の予告をする。

○次時は、ウェビングマップをもとに「かぞくをえがおにするほかほか大きくせん」を個別に計画することを伝える。